

1 战略共同を強化する米・イスラエル  
米国の中東特使マーフィーは、八月  
一三日ヨルダン・エジプト・イスラエル  
エルへの五日間の訪問を終えた。  
マーフィーのもちこんだ米国とヨル  
ダン・パレスチナ代表团の会合の提  
案は、イスラエル側の激しい拒否の  
姿勢にぶちあたった。元より、アラ  
ブートから提案された、PLOのメ  
ンバーを含むこの代表团の構成自身、  
米帝としても受け入れがたいものだ

ヨルダンはエジプトの経験を踏ま  
表題の構成の問題に絞られる段階に  
あることを示した。

ヨルダンは、PLOの分裂を促進し、  
PLOの構成の問題に絞られる段階に  
あることを示した。

ヨルダンを単独和平に引き込むこと  
が眼目である。ヨルダン・パレスチ  
ナ代表团との会談の提案はその実現  
解を作り出そうとしている関係にあ

## 米・イスラエルの戦略同盟強化と レバノン・パレスチナ・アラブ

一九八五年九月一〇日

# 月刊 中東レポート

第4号

発行 ウニタ書舗  
東京都千代田区神田神保町1-52  
TEL. (03) 291-5533  
編集 J.R.A.  
郵便振替 東京1-48443  
三菱銀行神保町支店 当座9012656  
会員制 年会費20000円

### 目次

米・イスラエルの戦略同盟強化とレバノン・パレスチナ・アラブ	1
現段階で提案されているレバノン改革案	5
レバノン共産党書記長ジョルジュ・ハウイのインタビュー(全訳)	5
パレスチナ共産党-PFLP共同コミュニケーション	9
イスラエル核武装-SDI参加に関する資料	10
イスラエル国会外交防衛委員会委員長アッバ・エバンのインタビュー	11
激動の中東ドキュメント(8月9日~9月10日)	13
追補 7・8月号資料	19

が、宗派政治の存続を望むものたちの狙いである。

この戦闘の激化に対し、シリアは、軍、ドルーズ、キリスト教徒、シリア派の各代表を東レバノンのシリアル陣地アンヤールに招請し、停戦合意を組織した。シリア軍のオプザーバーの戦闘地区、空港等への派遣と共に、ペイルートから重火器の撤去と、さらに全党派による保安委員会設置を確認した。しかし、カラミとナビーハ・ベリはこの停戦合意は不十分だとし、ペイルート全域へのシリア軍の存在を要求した。レバニーズ・フォーシズの側は、ゲリーンライン、ペイルート郊外の丘付近のシリア軍オブザーバーの展開には合意したがキリスト教徒地区への派遣は反対であると、二五日、表明した。シリアにとつて現時点での介入はフランスエをふくむマロン派との対立を生み出すゆえに、NUFの強化に力を注ぎ、フランジエ等の合流をはたらきかけていくだろう。

シリアは、戦略的には民主レバノン国家建設を援助して、シリアとの連邦的関係をつくりだすことによつて、対イスラエル陣地を固める方向をめざすだろうが、現在はレバノンの主体自身の力を強化し、法的改革

と南レバノンからイスラエルとその走狗 S.L.A.を完全に追い出すことに焦点を合わせている。

勧業の政治改進に在り

の代表がダマスカスに行くことを明瞭にした。フランジエは、九月五日、政治改革案として「キリスト教徒とモスラムの議席数を同数とする」「政府の最高ポストの三つを除き、宗派割り当て制を廃止する」等の「民族救済文書」を提案した。

他方、NUFの側は、すでに八月六日の結成時に政治改革の基本方向を提起しているが、八月三一日のバルベックの集会で、ナビーハ・ベリは、八項目の提案を行った。それは六宗派による一年交代の大統領輪番制を提起している。そして、シリアとの政治的・軍事的・経済的関係をより強化することを求めている。また別の動きとして、九月二日にフランジ党的副党首ジョージ・サーディがダマスカスを訪問しシリアの副大統領カッダムと二日間の討議を行った。サーディは「シリアはレバノン各派の和平対話の新段階を切り開く追求をしている」と語った。カタールはナビーハ・ベリらであり、ベリランジ党が伝えたフランジエの政治改革案を拒否したという。そしてシリアル側は「シリアルの最重要な同盟者はナビーハ・ベリらであり、ベリらの原則・立場・提案を支持する」こ

とを表明したという。ついで、九日にはレバニーズ・フォーシズの司令官ホベイカもダマスカスを訪問した。そして、宗派政治を改革し、各宗派平等の政治体制にむけた改革を行うことに合意した。これは、国民和解の方向に向けて右派が動きだしたことをしめしている。

シリアは、当面の戦略課題としてレバノンの安定を求めており、八二一年以降の反イスラエル戦を軸にした各派の力関係の変化を土台に民族和解を求め、妥協可能な線で合意をつくるうとしている。これらが、NUFへの進歩勢力の結集と政治改革案として集約されている。レバノンのこれまでの宗派政治に対して、非宗派的、つまり宗派を越えた民主主義的改革で一致している点で、NUFの政治改革案は画期的な意義をもつっている。

右派は、この国民和解の合意の線を政治運動的に、より右派に有利に導こうとし、シリアを巻き込んだ右派の合意可能な線づくりに躍起になつてゐる。

NUFに結集している左派・進歩勢力らは、力関係で得た獲得物よりも、低い線での合意にあえて妥協しており、それへの不満も消えてはお

なる。それゆえ、イスラエルが非妥協である限り、妥協をさらに強いられるを得ないのは、PLOヨルダン側になる。それはまたPLOのさらなる分解を促進することになる。PLO・ヨルダンは、この打開のためにアラブサミットの再度の実現と米帝国とのさらなる交渉を追求している。しかし、シリアがレバノン情勢の要を握り、反米反イスラエル戦線で主導的役割を果たしている現状では、シリアとの共同を再構築しない限り、かかる試みも米イスラエルへの屈伏の道につながっていくしかないのである。

こうした状況の中で、米帝・イスラエルは、反共世界戦略上で新たな段階の共同を開始している。それはSDIの共同である。今年四月五日にワインバーガーはイスラエルに対し、SDIへの正式参加要請を行った。五月中旬には、SDI協力のためのイスラエル代表団が訪米し、SDI長官のアブラムソンと会談を行った。アブラムソンはイスラエルのSDI参加のメリットについて、以下のごとく言及している。「イスラエルに対して配備されているミサイル、今後配備されるであろうミサイルからイスラエルを防衛するための

同計画は核武装に対してのものだが、中東における通常兵器に対する報復も行うであろう。従つてイスラエルはSDI参加で大いに得るものがあるはずだ」と。八月一日には、米物理学者で「原爆の父」といわれるエドワード・テラーがイスラエルを訪問した。これはSDI協力推進のためで「イスラエル側は、レーベン銃、高速銃の分野で協力を」と呼び掛けた。

元々、八四年一月に開かれた米イスラエル合同軍事委員会で、アラブに対する戦略的共同の確認・共同演習・軍事経済援助の確認等とともに、新兵器の共同製作の確認も行っていた。それより先、八三年段階で米航空宇宙局(NASA)とイスラエルは宇宙局の設置について調印を行った。エルサレムに近い山頂に衛星監視基地(レーザー光線利用)を設置するとした。またNASAは、テクニオング研究所、ワイルマン研究所、テルアビブ大学の三ヵ所での研究活動に資金を出している。ワイルマン研究所の原子物理学者ゲビロル・ゴーラード・リングは「SDIは、巨大なものであり、高度なレベルのもの。だから我々が参加しないという手はない」

これらは、イスラエルの核武装と S D I 参加が一体のものとしてあることを示している。かつて、一九八二年のイスラエル軍によるレバノン侵攻は、核兵器を除く近代科学兵器の実験場であるといわれた。クラスター爆弾等々の兵器は、核兵器に匹敵するほどの悲惨な結果をもたらした。今、イスラエルは米帝の支援の下、公然と核武装を開始している。米帝はイスラエルを S D I に組み込むことで、全地球的な支配を行おうとしている。それらは、中東における軍事バランスを、米・イスラエルに絶対的優位の下に置こうとするものである。

それは、反米反イスラエルの闘いが、反核軍拡・反宇宙戦争として世界的レベルの平和運動との連帯が求められていることを意味する。

## 2 レバノン内戦闘の激化

レバノンにおける進歩的民主勢力の統一－N U F の結成、マロン派の和解という左右それぞれの統一の動きのあと、左右の間の戦闘は、これまでにない激しさで激化した。八月一四日東ベイルートで車爆弾が爆発し少なくとも一三人が死亡、多數の

バノン内戦調の歴史

負傷者を出して以来、「グリーンライン」で砲撃戦が激化、さらに市南部の丘に戦闘はひろがり、ドルーズ派民兵とレバノン軍キリスト教徒右派民兵との砲撃戦に拡大。「グリーンライン」沿いは、八二年のベイルート戦争以上の激しい砲撃で夜も眠れなかつたという。この左右の戦闘は一二二日の停戦まで続き、九〇人の死者と数百人の負傷者を出した。この間一七日には、北ベイルートのスープーで車爆弾で少なくとも五四人が死亡、一二〇人の負傷者を出した。さらにも、西ベイルートで二つの車爆弾が爆発、二八人が死亡。二〇〇日にはトリボリで巧妙な車爆弾で四〇人死亡、約一〇〇人負傷という結果をもたらした。マロン派のシャモーンは、東ベイルートの爆弾をジョンブルットとナビーハ・ベリの責任として辞任を要求したが、カラミ首相は、一連の爆弾攻撃をイスラエルの仕業として非難。「なぜなら、国民的和解のあらゆる妨害がイスラエルの利益となるから」と語った。

NUFの結成は、イスラエルとカタエブにとって脅威である。内戦を煽動し、攪乱することで、国民的和解にむかう統一戦線の前進を阻止しつつシリアの努力を無にさせること

一 宗派別権益分割制廢止  
二 大統領は、八主要宗派が毎年輪番で担う。  
三 シリアとの軍事・経済・政治関係緊密化  
四 イスラエルの占領から、南部の完全解放をかちとる（集会では、八五年末までに達成しようと呼びかけた）

スレイマン・フランジエ氏の改革  
一三項目案——救国ドキュメント  
(これは、七六年、当時大統領であ

ナビトハ・ベリ氏の  
八頭目墨表ノ三

八項目提案（主旨）

現段階で提案されている  
レバノン改革案

a NUF綱領 八月六日発表  
(八月号資料参照)

b ナビリハ・ベリ氏の八項目提案  
八月三一日発表

c フランジエ氏の救国ドキュメント(一三項目改革案)九月五  
日発表

2. レバノンは、人権を（表現と信仰の自由を含む）尊重する、民主的議会制にのっとる共和国である。
3. レバノンの経済体制は自由経済ただし、国家が組織的、統轄的役割を担わねばならない。
4. アラブ諸国との関係は、友誼、協力、相互尊重の原則にのっとる。
5. レバノンはアラブリーグの加盟国であり、アラブの団結強化に力を尽くさねばならない。
6. レバノン－シリヤ関係の強調相互の独立尊重、歴史的つながり両国の共通の利益と運命の尊重を土台に、両国の協力と全方面での共勵が必要である。
7. イスラエルとは、いかなる形においても協力を拒否。

2. レバノンは、人権を（表現と信仰の自由を含む）尊重する、民主的議会制にのっとる共和国である。
3. レバノンの経済体制は自由経済ただし、国家が組織的、統轄的役割を担わねばならない。
4. アラブ諸国との関係は、友誼、協力、相互尊重の原則にのっとる。
5. レバノンはアラブリーグの加盟国であり、アラブの団結強化に力を

レバノン共産党書記長  
ジョルジ・ハウイの  
インタビュー（全訳）

問：カミーユ・シャムーン大臣は、NUFがシユトゥーラで採択した決議は、レバノンのイスラム化を狙ったものだとしていますが、答：それは、全くの言いがかりです。そんな中傷をして、どういうつもりなのかと、私は、シャムーンの本音を疑います。彼は、切れ者です。我が、キリスト教徒のためのレバノン

理解したので、現在の宗派別権益分割体制（この政治体制でクリスチャント自身も被害をこうむっているのですが、モスラムより被害は少ないかも知れませんがね）を何が何でも保持せんと絶望的にとりくんでいる、我々はそう見ています。

階の交渉となるがゆえに、軍事による政治獲得もまた不可分であり、闘は繼続されざるを得ない。  
同時にこうした動きは、民族統をめぐる部外者の位置に置かれるサレバノン人のパレスチナ勢力へのマ盾の転化の危険が存在する。と同時に、それに直反応してかつての権利の主張を政治と武力によって繰り戻す限り、左右の力の合作である「民族的枠」を否定的・在方向へ進める。つまり、パレスチナ勢力とレバノンの進歩勢力との矛盾が拡大する。  
パレスチナ勢力にとっては、イフラエルの侵略によつて、いつたんはその物質基盤を破壊されたものの、レバノン進歩勢力を主力とする反イスラエルの闘いの勝利的前進は基盤の再構築の機会をもたらし、キャンプ人民の自主防衛を含む自己の既得

権の確保をし、反イスラエル戦線  
自主的基盤をつくるうとするパレスチナ勢力とイスラエルと対峙しつつ統一的民主国家をつくるうとする、バノン進歩勢力との間の矛盾が激化し、キャンプ戦争に至った。その矛先が自身が解消されたわけではないが、六月のダマスカス一三項目合意は、解決のいとぐちをあたえている。

三項目合意は、パレスチナ対レバノン人という枠を越えたアラブ規模の反帝勢力の共同の方向と基準を示す画期的なものである。なぜなら、哈リ線的に反米反イスラエルの結束を組織的政治的問題を解決しておらず、P.S.F.をP.L.O.代表とみなすなど、カイロ協定を越えた内容をもつてゐる。それは、パレスチナ、レバノンのみならず、反帝勢力全体の勝利といえる。

パレスチナ勢力が民主国家レバノンの建設を支援し、レバノン人自身を中心とする反イスラエル戦線を共同する限り、解決の方向に向かうだろう。民主国家レバノンを建設する闘いの位置は、反帝反イスラエル陣地の強化であるという戦略的視点から、現在の問題を解決することが期待されている。

現在の政治改革が要求される。しかし、現在の政治改革合意は各々の力関係を反映した妥協として成立しており、それもシリアの支持・支援によって維持し得るという流動的条件に制約されている。人民の段階的成熟に見合った政治改革の獲得として支持すべきものだが、同時に、これを右翼勢力は統いており、軍事が政治の延長である以上、政治獲得のもとに武装組織を統制し、レバノン左派・パレスチナ勢力が闘う限り、必ず段階的な内派の勝利をつくるだろう。逆にいえば、それをなしえないかぎり敵の挑発と分裂策動の前で、味方内の矛盾を自然発生的に拡大することになる。

は、サウジアラビアを訪問し、ファハド、アブドゥーラと会談を行つてゐる。（九日、レバノンでは過去一日間にわたるパレスチナ勢力とアフルの戦闘の終結のため、カラミは、シリア軍の展開を要請した）  
アラブ全体、サミット、パレスチナ解放、民主国家レバノン建設等、全領域で中東における和平と安定の在り方をめぐる立場として、反帝勢力とそうでないものの違いを軸に活動が形成されている。そして、現時点における力関係は、反帝勢力の展開に有利である。建国・政治改革を推進し、PLO（P.S.F.）の支持による反イスラエル反右翼戦線を路線的共同として政治的物質的合意を進めしていくこと。パレスチナ・レバノルにおいてはアンマン合意に基づく直接交渉戦術を阻止し、アラブ・ベルにおいて、反帝反イスラエルを団結の基礎とする対峙の形成として全ての和平・建国努力を続けていく機会だろう。

問：しかし（テナンシー）日本は（既に）一〇年前に提案した）憲法改訂提案とイスラム一〇原則を土台にすればならないと主張しているようですが。

答：今回のレバノン危機が勃発して以来、フランジエ氏が提案してきた解決案の内容は一貫しています。氏が両提案を提案した時、ずい分と昔の話ですが、完全な解決という訳ではないにもせよ、我々は支持を表明したものです。一定の解決にむけたしつかりした土台を代表していたからです。また、イスラム一〇原則も、大変有効であり、広く受け入れたもので、これにも我々は支持表明してきました。

我々が現在提唱している解決案は氏の両提案の積極的因素、即ち、レ

問 イスラエルがまだ手離していな  
い南レバノン占領地域から近く撤退  
するのではないかという噂があります。  
もし、そうなつたら、ジャジーン、  
または西ベガードの戦闘が開始  
されるのでしょうか？

答 ディ・ジャマル・サティ烈士、そして  
彼の同志達のような決死の抵抗をう  
けては、イスラエルも撤退せざるを  
得ないでしよう。烈士達は、イスラ  
エルの占領を一日も早く終わらせ、  
「SALA」なる裏切り者共を打倒す  
るために、生命もいとわないのです  
から。

したら、レバノン人同士の内ゲバになるかどうかは、二つの要素によります。第一には、民族主義的キリスト教徒のジャン・アジズ等ジャジーンのリーダー達が、「セキュリティ・ベルト」なるこの地域からのイスラエル占領者共の撤退と交換に、キリスト教徒の大量移民を許さないことです。第二は、レバノンの民族的努力が宗派主義をのりこえ、シユトゥーラで提案された（NUFの）積極的・非宗派的な民族綱領を採るという事。そうすれば、たとえイスラエルが引いたとしても、宗派間戦闘の煽動に拝跪しない非宗派的民族的意志が勝利

したら、レバノン人同士の内ゲバになります。第一には、民族主義的キリスト教徒のジャン・アジズ等ジャジーンのリーダー達が、「セキュリティ・ベルト」なるこの地域からのイスラエル占領者共の撤退と交換に、キリスト教徒の大量移民を許さないことを。第二は、レバノンの民族的努力が宗派主義をのりこえ、シユトウーラで提案された（NUFの）積極的・非宗派的な民族綱領を探るという事。そうすれば、たとえイスラエルが引いたとしても、宗派間戦闘の煽動に押されない非宗派的民族的意志が勝利するでしょう。

LNSF解散時、現在のNUFの前身として民族民主戦線（LNDF）の結成が必要だと思いました。NUFの任務は、レバノンにおける外国勢力たるイスラエル、米国の政策に反対するレベルを超えて、レバノンの将来を政治、経済、社会改革問題と結合させてレバノン内レベルの問題にとりくむ事でした。NUFは、ファンジ党支配に反対する事は、宗派主義に立脚したらどんな方法によても解決できないが、民族的・民主的解決方法によってなら可能である、この点を明確にして、大目標の一つを達成して、ます。

統一決定を作りえません。しかし、この特殊な関係の堅持を決意していし、キリスト教党派の参加なく、民る事で、ひろく知られております。

もキリスト教徒対モスレスの砲撃戦として、宗派対立の様相を帯びる事になってしまいます。

問・元大統領のスレイマン・フランジーエ、レバニーズ・フォーシズ、ファランジ党、そしてレバニーズ・フロントがキリスト教徒側としての純粹に、キリスト教徒の将来のためを妨害しているのです。

こうしたキリスト教徒の利益に忠実な有名な人士は、元大統領のスレイマン・フランジーエ氏でしょう。レバノン統一、アラブ主義、シリアル・アラブ主義の支持者で、

してみせたのです。こうしたレバニーズ・フォーシズ対ファラング党の大規模衝突をさけるために、ペイルートの東西境界線で戦闘拡大がいつもわざとひきおこされているのです。西ペイールートへの砲撃により、キリスト教党派間憎悪のはけ口が作られています。当然、外見上は、あたかくあります。それでは、その人は、だ残っています。それで、その人は、自認するある人の中には、イスラエルとくむという戦略展開の影響がま

ト教徒の存在は、キリスト教徒でないレバノン人の存在と同じ位、危機にひんしている訳ですし、どんな市民も官吏もこの問題について自分の意見を述べる権利があるのです。レバニーズ・フォーシズは、エーデン訪問後、再び注目的になつています。一党派がある政治展開をすれば必ず他党派がそれを正体暴露するのに血道をあげるのが意見の相違の通例の表現形態であるような地区において、レバニーズ・フォーシズは自分達自身で実権を握るという事を示

族対話は、ありえない訳です。この混乱を解決していくのは何でしょう  
答・過去、イスラエルと親密なある党派がキリスト教徒側としての決定を独占してきており、キリスト教徒側の代表である事をシオニストの陰謀の代表者というものにすりかえてきたのです。それから考えたら、この混乱は、肯定的な第一歩ですね。  
それに、キリスト教徒側の決定がイスラエルへの依存を断ち、代わりに、アラブとしてのレバノン建設に賭け

いたいですよ。

では、「キリスト教化」のかわりに「イスラム化」したらどうでしょう? これが「キリスト教化」よりも「伊斯兰化」の方が約束する事は考えられません。我々は、モスレムの要求を採用しただけです。何故なら、モスレム側は、レバノンの「イスラム化」を要求しているのではなく、宗派主義による特定宗派のヘゲモニーと特権の廃止、これを要求してい

るからです。

問・東西ベイルートの治安情勢が最近悪化していますが、東西間戦闘拡大の背後要因は何でしょうか?

答・キリスト教徒代表権をめぐるフランジスト党対レバニーズ・フォーシーズの内ゲバであると確信しています。一般のキリスト教徒は全く関与していないと、私は確信していま

すよ。

かつて、レバノン大統領はキリスト教徒の唯一の代表者であると主張

パノン民族運動の民主的根源にさかのぼったのです。もし、そういう言い方をしても妥当なら、レバノンの「キリスト教化」こそ、レバノンの「シオニズム化」という範疇に属するので、レバノンの分裂解体の元凶であるこれら二つの事、これらをもう一度言

し、ファランジスト党、レバニーズ・フォーシズ、そしてレバノン国軍の事実上のリーダーをつとめる事によつて、勝手にキリスト教徒総体のスパークスマンになつたのです。しかし、後には、次の事が明らかになりました。サミール・ジャジャの反乱、続くエリ・ホベイカの反乱、大統領の小心で優柔不斷な指揮に対する、ファランジ党軍、そしてレバノン国軍内のキリスト教将兵の大部が拒否を示したのに加えて、とうとうファンジ党に蔓延している総体的麻痺、これらは、レバノン大統領のみがキリスト教徒総体の利益を代表する権利なるものが、もはや通用せず、もめているという事です。この点で、レバニーズ・フォーシズは、非ファンジ党系のかなりの部分を自派にひきつけ、ファランジ党のヘゲモニーを碎き、キリスト教徒代表権独占維持をめざすファンジ党の野望に挑戦する潮流を形成しようとしました。この動きにより、レバニーズ・フォーシズは、レバノン内紛争に関連する全ての問題を解決しようとする時、ないがしろにできない一党派として登場した訳です。

ト教徒の存在は、キリスト教徒でないレバノン人の存在と同じ位、危機にひんしている訳です、どんな市民も官吏もこの問題について自分の意見を述べる権利があるのです。レバニーズ・フォーシズは、エーデン訪問後、再び注目的になつています。一党派がある政治展開をすれば必ず他党派がそれを正体暴露するのに血道をあげるのが意見の相違の通例の表現形態であるような地区において、レバニーズ・フォーシズは自分達自身で実権を握るという事を示してみせたのです。こうしたレバニーズ・フォーシズ対フアランジ党の大規模衝突をさけるために、ベイルートの東西境界線で戦闘拡大がいつもわざとひきおこされているのです。西ベイルートへの砲撃により、キリスト教党派間憎悪のはけ口が作られています。当然、外見上は、あたかもキリスト教徒対モスレスの砲撃戦として、宗派対立の様相を帯びる事になつてしまします。

族対話は、ありえない訳です。この  
混乱を解決していくのは何でしょう  
か？

答・過去、イスラエルと親密なある  
党派がキリスト教徒側としての決定  
を独占してきており、キリスト教徒  
側の代表である事をシオニストの陰  
謀の代表者というものにすりかえて  
きたのです。それから考えたら、こ  
の混乱は、肯定的な第一歩ですね。

それに、キリスト教徒側の決定がイ  
スラエルへの依存を断ち、代わりに、  
アラブとしてのレバノン建設に賭け  
る方向が成功するとしたら、現在、  
キリスト教徒側としての統一決定が  
「欠如している」という事も、積極  
的な一步たりうるでしょ。

キリスト教徒のスポーツマンを  
自認するある人の中には、イスラエ  
ルとくむという戦略展開の影響がま  
だ残っています。それで、その人は、  
純粹に、キリスト教徒の将来のため  
に発言する民族的キリスト教徒潮流  
を妨害しているのです。

こうしたキリスト教徒の利益に忠  
実な有名な人士は、元大統領のスレ  
イマン・フランジエ氏でしょう。  
レバノン統一、アラブ主義、シリア  
との特殊な関係の堅持を決意してい  
る事で、ひろく知られています。



様々な方法を検討しあおうという事です。つまり、シートウーラで明らかにされた基本的原則と（これは譲れません）、この基本原則実現の方法とを区別せねばなりません。方法は、シートウーラ会議には不参加であつても我々の同盟者である党派（その中にはフランジエ氏や文相のサリム・ホス氏などの民族的人士を含んでいます）からの提案に沿うように、いくらでも討議を深めたら良い訳です。

また、相手側、もしくは相手側の何人かが積極的な提案をしてくれるなら、喜んで聞く耳をもっています。

そして、レバノンに忠実であり、シリアルの役割、ハーフェズ・アサド大統領の指導に忠実な人々全てが提案する限り、いくらでも、方法については討議し、より良いものを作つていただきたいと考えているのです。

ヨルダン合意破棄へむけ、現

線に対する米国案をくつがえすため、降伏主義、投降主義の路線に対し、

そしてアンマン合意破棄へむけ、現

在展開中の闘いが必要であるという

事であります。

アからレバノンが必要とするアラブ的援助をうける、そういうものを展望しているのです。これが達成された暁には、自主治安の必要性はなくなるのです。

SF（治安維持部隊）を備え、シリ

アからレバノンが必要とするアラブ

的援助をうける、そういうものを展

望しているのです。これが達成され

た暁には、自主治安の必要性はなく

なるのです。

問・シドン市内の戦闘の脅威は解消

したと考えますか？

答・いいえ、まだですね。アラブ首

腦会議の頓座、そして、パレスチナ

人民と、パレスチナ人民の革命原則ば

かりか、アラブ民族解放運動を犠牲

にしてまで、米一イスラエルが仕掛け

てきて、アラブ反動やヨルダン・パレスチナ

合意なるものの立役者連中が煽動し

て、PNSFの兄弟達、同盟

者、および反投降主義の立場に立つ

全てのパレスチナ人士に対して、我

は、アラファトが賭けている戦闘

を防止せよと叫びかけるのです。こ

の戦闘の最たる犠牲はサイダ（シド

ン市別称）になろうが、いずれ、他

の地域にも飛び火していくと考えら

れます。

問・もし、全ての外交努力が水泡に

飛ぶ中東に最近回ってきた時、ア

メリカのふりをしたイスラエルとパ

レスチナのふりをしたヨルダンとが

裏切り的な交渉に入るかもしれません

いというのに、ヤセル・アラファト

もたらす事は、明々白々です。レバ

ノンでパレスチナもからめた内ゲバ

を激化させれば、裏切り的交渉がひ

きおこす反応を弱める事ができるし、

パレスチナ人が裏切り提案を飲ま

ざるを得ないような正当性の宣伝に

なるのでしょう。

従つて、PNSFの兄弟達、同盟

者、および反投降主義の立場に立つ

全てのパレスチナ人士に対して、我

は、アラファトが賭けている戦闘

を防止せよと叫びかけるのです。こ

の戦闘の最たる犠牲はサイダ（シド

ン市別称）になろうが、いずれ、他

の地域にも飛び火していくと考えら

れます。

問・もし、全ての外交努力が水泡に

飛ぶ中東に最近回ってきた時、ア

メリカのふりをしたイスラエルとパ

レスチナのふりをしたヨルダンとが

裏切り的な交渉に入るかもしれません

いというのに、ヤセル・アラファト

もたらす事は、明々白々です。レバ

ノンでパレスチナもからめた内ゲバ

を激化させれば、裏切り的交渉がひ

きおこす反応を弱める事ができるし、

パレスチナ人が裏切り提案を飲ま

ざるを得ないような正当性の宣伝に

なるのでしょう。

従つて、PNSFの兄弟達、同盟

者、および反投降主義の立場に立つ

全てのパレスチナ人士に対して、我

は、アラファトが賭けている戦闘

を防止せよと叫びかけるのです。こ

の戦闘の最たる犠牲はサイダ（シド

ン市別称）になろうが、いずれ、他

の地域にも飛び火していくと考えら

れます。

問・もし、全ての外交努力が水泡に

飛ぶ中東に最近回ってきた時、ア

メリカのふりをしたイスラエルとパ

レスチナのふりをしたヨルダンとが

裏切り的な交渉に入るかもしれません

いというのに、ヤセル・アラファト

もたらす事は、明々白々です。レバ

ノンでパレスチナもからめた内ゲバ

を激化させれば、裏切り的交渉がひ

きおこす反応を弱める事ができるし、

パレスチナ人が裏切り提案を飲ま

ざるを得ないような正当性の宣伝に

なるのでしょう。

従つて、PNSFの兄弟達、同盟

者、および反投降主義の立場に立つ

全てのパレスチナ人士に対して、我

は、アラファトが賭けている戦闘

を防止せよと叫びかけるのです。こ

の戦闘の最たる犠牲はサイダ（シド

ン市別称）になろうが、いずれ、他

の地域にも飛び火していくと考えら

れます。

問・もし、全ての外交努力が水泡に

飛ぶ中東に最近回ってきた時、ア

メリカのふりをしたイスラエルとパ

レスチナのふりをしたヨルダンとが

裏切り的な交渉に入るかもしれません

いというのに、ヤセル・アラファト

もたらす事は、明々白々です。レバ

ノンでパレスチナもからめた内ゲバ

を激化させれば、裏切り的交渉がひ

きおこす反応を弱める事ができるし、

パレスチナ人が裏切り提案を飲ま

ざるを得ないような正当性の宣伝に

なるのでしょう。

従つて、PNSFの兄弟達、同盟

者、および反投降主義の立場に立つ

全てのパレスチナ人士に対して、我

は、アラファトが賭けている戦闘

を防止せよと叫びかけるのです。こ

の戦闘の最たる犠牲はサイダ（シド

ン市別称）になろうが、いずれ、他

の地域にも飛び火していくと考えら

れます。

問・もし、全ての外交努力が水泡に

飛ぶ中東に最近回ってきた時、ア

メリカのふりをしたイスラエルとパ

レスチナのふりをしたヨルダンとが

裏切り的な交渉に入るかもしれません

いというのに、ヤセル・アラファト

もたらす事は、明々白々です。レバ

ノンでパレスチナもからめた内ゲバ

を激化させれば、裏切り的交渉がひ

きおこす反応を弱める事ができるし、

パレスチナ人が裏切り提案を飲ま

ざるを得ないような正当性の宣伝に

なるのでしょう。

従つて、PNSFの兄弟達、同盟

者、および反投降主義の立場に立つ

全てのパレスチナ人士に対して、我

は、アラファトが賭けている戦闘

を防止せよと叫びかけるのです。こ

の戦闘の最たる犠牲はサイダ（シド

ン市別称）になろうが、いずれ、他

の地域にも飛び火していくと考えら

れます。

問・もし、全ての外交努力が水泡に

飛ぶ中東に最近回ってきた時、ア

メリカのふりをしたイスラエルとパ

レスチナのふりをしたヨルダンとが

裏切り的な交渉に入るかもしれません

いというのに、ヤセル・アラファト

もたらす事は、明々白々です。レバ

ノンでパレスチナもからめた内ゲバ

を激化させれば、裏切り的交渉がひ

きおこす反応を弱める事ができるし、

パレスチナ人が裏切り提案を飲ま

ざるを得ないような正当性の宣伝に

なるのでしょう。

従つて、PNSFの兄弟達、同盟

者、および反投降主義の立場に立つ

全てのパレスチナ人士に対して、我

は、アラファトが賭けている戦闘

を防止せよと叫びかけるのです。こ

の戦闘の最たる犠牲はサイダ（シド

ン市別称）になろうが、いずれ、他

の地域にも飛び火していくと考えら

れます。

問・もし、全ての外交努力が水泡に

飛ぶ中東に最近回ってきた時、ア

メリカのふりをしたイスラエルとパ

レスチナのふりをしたヨルダンとが

裏切り的な交渉に入るかもしれません

いというのに、ヤセル・アラファト

もたらす事は、明々白々です。レバ

ノンでパレスチナもからめた内ゲバ

を激化させれば、裏切り的交渉がひ

きおこす反応を弱める事ができるし、

パレスチナ人が裏切り提案を飲ま

ざるを得ないような正当性の宣伝に

なるのでしょう。

従つて、PNSFの兄弟達、同盟

者、および反投降主義の立場に立つ

全てのパレスチナ人士に対して、我

は、アラファトが賭けている戦闘

を防止せよと叫びかけるのです。こ

の戦闘の最たる犠牲はサイダ（シド

ン市別称）になろうが、いずれ、他

の地域にも飛び火していくと考えら

れます。

問・もし、全ての外交努力が水泡に

飛ぶ中東に最近回ってきた時、ア

メリカのふりをしたイスラエルとパ

レスチナのふりをしたヨルダンとが

裏切り的な交渉に入るかもしれません

いというのに、ヤセル・アラファト

もたらす事は、明々白々です。レバ

ノンでパレスチナもからめた内ゲバ

を激化させれば、裏切り的交渉がひ

きおこす反応を弱める事ができるし、

パレスチナ人が裏切り提案を飲ま

ざるを得ないような正当性の宣伝に

なるのでしょう。

従つて、PNSFの兄弟達、同盟

者、および反投降主義の立場に立つ

全てのパレスチナ人士に対して、我

は、アラファトが賭けている戦闘

入り権の付与  
未公表の最重要決定は「アメリカ  
とイスラエルは共同して、レバノン  
からシリアが完全撤退するまで努力  
する」というもの（英紙「オブザー  
バー」のスクープ）  
**八四年一月▽**  
一月二三日（二六日 合同軍事委  
員会第一回  
以下を決めた。  
①アラブに対する戦略的共同確認  
②イスラエルは、米のRDF（緊急  
展開軍）に軍港、他の施設使用権  
限を与える  
③米は、イスラエルに新しく軍事教  
官を派遣する  
④新兵器共同製作  
⑤米・イスラエルは中東で共同演習

八五年四月五日  
米、SDIへのイスラエル参加正式要請（ワイン・バーガーからラビンへの書簡）

四月一五、二〇日  
調印  
a マーフィの中東歴訪  
b 米海軍大臣、イスラエル訪問  
c 米－イスラエル無関税通商条約

五月二三日  
SDI協力のためのイスラエル軍事代表団、米訪問了。SDI長官ジ  
米帝からうけている。  
米帝は、どこの国ともこの種の条  
約締結した事はない。

八月一日  
イスラエルは、SDI参加で大いに得るものがあるはずだ

米物理学者（「原爆の父」と称されている）エドワード・テラー博士イスラエル訪問。SDI協力推進のため、「イスラエル側は、レーダー・ガン、高速銃の分野で協力を」  
イスラエル国会外交防衛委員会委員長アッバ・エバンのインタビュー  
ニューズ・ウィーク誌  
八五年八月一九日号（全訳）  
1. レバノン侵略戦争の総括  
イスラエル軍の大部分はレバノン

「これを学習したのです。自分の軍事力を過信してはならないという事です。」

b イスラエルはレバノン南部のクリスチャン系ミリシアに財政援助していますが、それよりも多数派のシリア派との同盟にきりかえるべきと考えられますか？

「レバノンに求めているのは、同盟者として誰が良いかという事ではありません。我々は、ただレバノンが手を出さないでほしいだけです。しかし、レバノンにおいてクリスチヤンのヘゲモニー確立を作ろうとした考えがイスラエルの基本的な誤ちである、こう考えた方が賢明ですね。それよりも、我々の眞の近隣者たるシリア派総体との共存を追求する方

-11-

つてみると（過去数カ月間）

1. 米海軍、イスラエル製のRPV（無人偵察機）発注と、同機種の共同開発実行中。（RPVは八二年度のレバノン侵略戦に活用された）
2. 米海兵隊 B-300 対戦車兵器（イスラエル製）購入。
3. 米国防総省 イスラエル製クフイール戦闘機（MIGのコピー）購入。米パイロットの模擬戦に使用。
4. 共同開発、製作

a 私企業部門 戰術攻撃仮橋を

8. 一  
a イスラエルとパキスタンにパ  
ー・シングII配備を米は計画中。  
b イスラエルー米の新しい軍事  
合意は、イスラエルが既に所有して  
いる核の力をさらに強化できる。米  
ーNATO間の核関係レベルになろ  
う。

学エネルギー)理論によつて作動する兵器ネットワーク  
c 敵の目標を位置確定し、出したく監視、その他の目的のシステム  
d 統轄、司令、監視、通信システム  
e 兵器修理のためのネットワーク  
　　ワイツマン研究所の原子物理学者  
　　ゲビロル・ゴールドリング博士  
「SDIは巨大なものであり、高度なレベルのもの。だから、我々が參

スラエルから優秀な人材が流出するのを食い止めてやる。

b SDIにNATO以外の国（日本、オーストラリア、イスラエル）を招請した意図  
大量殺人兵器生産の共働のみならず、その兵器を利用した戦略総体への参加を要求。

c イスラエルに対し、核の傘を与える。



一二日夜より一三日朝まで一六時間の東西ベイルート砲撃戦。  
**(A)**リビアのトリポリでアラブ人民会議代表者会議声明 「カサブランカ・サミットとマーフィ中東歴訪、ライトスター'85のタイミングは、米帝主導のパレスチナ問題解決を狙ったもの。アラブ反動はキヤンブデービッドの第二段階へ入ろうとしている」

**(B)**シドン市NPO(ナセリスト)リーダー、ムスタファ・サアド氏、モスクワ訪問を終え帰国。

**(C)**ソ連の立場・レバノンの統一、独立、南レバノンからのイスラエル一掃支持。

**(D)**シリアの反帝・反シオニズム・反反動の役割をソ連と討議。

**(E)**カサブランカ・サミット・ペレスチナ人にとっても、アラブの連帯にどうても、何ら成果を生まなかつた。

**(F)**マーフィ、アンマン行き。米国務省副スポーツマン、今回の中東旅行では、パレスチナ人リーダーとの直接交渉、または予備交渉はしない予定。

**(G)**イスラエル・レバノン人捕虜(マーカト監獄)一〇一人釈放。(あと二五〇人ぐらいい残っている)

**(H)**①マーフィ、ムバラクとの会談後再びアンマンへ。

**(I)**イスラエルラジオ「ライツマン国務省」「イスラエル破壊」を目標にスープーマー・ケット前に車爆弾。(死者四八人、負傷一三〇人)

**(J)**アリエル・シャロンが実権を握っていた頃、西岸のアラブ人地主の登記書類を偽造していたスキヤダル(過去二年間)暴露。

**(K)**①ファハド国王、仏首相デュモアリエル・シャロンが実権を握っていた頃、西岸のアラブ人地主の登記書類を偽造していたスキヤダル(過去二年間)暴露。

**(L)**ヨルダンのリファイ首相、マーフィ訪問について外人記者団に語る「先週のマーフィ会談で、若干の進展はあったが、今回、ヨルダン一パレスチナ合同代表団との会談はないと思う。ヨルダンは、パレスチナ人代表七人のうち最低四人。会談の日程をアメリカが明らかにしてくれる事を期待している」

**(M)**①ペイルートのアル・アンバア紙(PSP系)、カサブランカ・サ

ミットを非難。

**(N)**①マーフィ、アンマンにてフセイントとの会談後、声明発表。

**(O)**モルデシャイ准将、パレスチナ人コマンド二名の殺害に責任なしとの判決うける。

**(P)**八・一九(月)

**(Q)**①西ベイルート二カ所に爆弾攻撃(車爆弾)。一〇分間隔。警察発表では、二件で死者二六名、負傷者八四名。

**(R)**南部レバノン①イスラエル-SLA合同ポジションを志士アブダル・Fとアマル代表の会談。

**(S)**③シリア航空—レバノン航空(MEA)週二五便相互乗り入れ再開。最初のシリア航空機、ペイルート空港着。

**(T)**①イスラエル軍—SLAが南部レバノン三カ村を砲撃。

**(U)**②シャロン、ヘブロン市(西岸)入植キャンペーン肩入れのため、のりこむ。タヒヤ党国会議員三名がヘブロン市内への入植前線基地建設を要求して、建物にとじこもって四日目。シャロンはこのキャン

ペーン演説で曰く「やがて、ヘブリエットで車爆弾(七五名負傷、一二名死亡)」。一二日前にはレバニーズ・フォーシズ司令部前で車爆弾、人命被害なし。

**(V)**①マーフィー・フセイン会談スタート。訪問中のホンデュラス外相、近く大使交換レベルに国交を深める(現在、ローマにイスラエル大使をおき、ホンデュラスにおけるイスラエルの利益を代行しているのはガテマラ大使館)。

**(W)**①オーマン、英・西独・伊合弁軍事企業パナヴィア社のトルネド・ジェット戦闘機購入契約に調印。

**(X)**①アラファート議長、アンマン入り。

**(Y)**②フセインはスペインでのバカンス終了。ファン・カルロスと会談了。

**(Z)**③パレスチナ・ヨルダン合同代表団のメンバーとされるハンナ・シニオラ氏(エルサレムのアラブ紙アル・ファジルの編集委員)、ファイエズ・アブ・ラハメ氏(ガザの弁護士)も西岸からアンマンへ。

**(AA)**ガザ市前市長のラシヤド・アル・シャワ氏(八一年、軍政に抗議して辞任)、ペレスと会談。(ペレスは、七月にはベツレヘム市長エ

ロム市でユダヤ人が住民の大多数となる日がくる」

**(BB)**八・二〇(火)

**(CC)**①トリポリで車爆弾(死者四五人、負傷一〇〇人)

**(DD)**東西ベイルート砲撃戦激し(警察発表では死者四〇、負傷一四三人)

**(EE)**②東西ベイルート砲撃戦激し(警察負傷一〇〇人)

**(FF)**③TWA事件で人質になった四人のアメリカ人、TWA社を相手に訴訟。うち一人は一〇〇万ドル要求。TWAは、早期釈放された乗客一人に一万五〇〇〇ドル、最終的に六月三〇日に釈放された三九人の賠償を行おうとしていた。

**(GG)**①カイロで、イスラエル大使館員処刑さる。出勤途中、狙撃された。カイロのロイター支局に「エジプト革命」から声明文届く。処刑した大使館員がイスラエルのスペイント革命から声明文届く。処刑されると非難。八四年六月にもイスラエル大使館行政アタシエを狙撃。

**(HH)**②ザイールに対し八〇〇万ドルのクレジット(軍事、開発用)。大統領警衛特別旅団装備、シャバ州駐屯の師団装備用で、装備の訓練、監督をイスラエル軍事要員が行う予定。

**(II)**①八月二十四日～九月七日のフット

1985年11月30日 第4号

一二日夜より一三日朝まで一六時間の東西ベイルート砲撃戦。

**(A)**リビアのトリポリでアラブ人民会議代表者会議声明 「カサブランカ・サミットとマーフィ中東歴訪、ライトスター'85のタイミングは、米帝主導のパレスチナ問題解决を狙ったもの。アラブ反動はキヤンブデービッドの第二段階へ入ろうとしている」

**(B)**シドン市NPO(ナセリスト)リーダー、ムスタファ・サアド氏、モスクワ訪問を終え帰国。

**(C)**ソ連の立場・レバノンの統一、独立、南レバノンからのイスラエル一掃支持。

**(D)**シリアの反帝・反シオニズム・反反動の役割をソ連と討議。

**(E)**カサブランカ・サミット・ペレスチナ人にとっても、アラブの連帯にどうても、何ら成果を生まなかつた。

**(F)**マーフィ、アンマン行き。米国務省副スポーツマン、今回の中東旅行では、パレスチナ人リーダーとの直接交渉、または予備交渉はしない予定。

**(G)**イスラエル・レバノン人捕虜(マーカト監獄)一〇一人釈放。(あと二五〇人ぐらいい残っている)

工作旅行を終え、帰国。

**(H)**①アラファート議長、アンマン入り。

**(I)**②フセインはスペインでのバカンス終了。ファン・カルロスと会談了。

**(J)**③パレスチナ・ヨルダン合同代表団のメンバーとされるハンナ・シニオラ氏(エルサレムのアラブ紙アル・ファジルの編集委員)、ファイエズ・アブ・ラハメ氏(ガザの弁護士)も西岸からアンマンへ。

**(K)**ガザ市前市長のラシヤド・アル・シャワ氏(八一年、軍政に抗議して辞任)、ペレスと会談。(ペレスは、七月にはベツレヘム市長エ

ニアス・フレイジ氏、ナブルス実業家ヒクマト・アル・マスリ氏と会談した。

**(L)**①東ベイルートで車爆弾(七五名負傷、一二名死亡)。一二日前にはレバニーズ・フォーシズ司令部前で車爆弾、人命被害なし。

**(M)**①マーフィー・フセイン会談スタート。訪問中のホンデュラス外相、近く大使交換レベルに国交を深める(現在、ローマにイスラエル大使をおき、ホンデュラスにおけるイスラエルの利益を代行しているのはガテマラ大使館)。

**(N)**①オーマン、英・西独・伊合弁軍事企業パナヴィア社のトルネド・ジェット戦闘機購入契約に調印。

**(O)**①アラファート議長、アンマン入り。

**(P)**②フセインはスペインでのバカンス終了。ファン・カルロスと会談了。

**(Q)**③パレスチナ・ヨルダン合同代表団のメンバーとされるハンナ・シニオラ氏(エルサレムのアラブ紙アル・ファジルの編集委員)、ファイエズ・アブ・ラハメ氏(ガザの弁護士)も西岸からアンマンへ。

**(R)**ガザ市前市長のラシヤド・アル・シャワ氏(八一年、軍政に抗議して辞任)、ペレスと会談。(ペレスは、七月にはベツレヘム市長エ

ニアス・フレイジ氏、ナブルス実業家ヒクマト・アル・マスリ氏と会談した。

**(S)**①ハイジャックされたTWA機、ペイルートからローマへ(キプロス経由)。

**(T)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(U)**①アラブリーグの経済問題書記次事企業パナヴィア社のトルネド・ジェット戦闘機購入契約に調印。

**(V)**①マーフィー、イスラエル入り。

**(W)**②シリア訪問を終了し帰国した米共和党イリノイ選出下院議員オブライエン氏、「アサド大統領がレバノンでつかまっている米国人の釈放努力を約束してくれた」

**(X)**②シリア訪問を終了し帰国した米共和党イリノイ選出下院議員オブライエン氏、「アサド大統領がレバノンでつかまっている米国人の釈放努力を約束してくれた」

**(Y)**②アラブリーグの経済問題書記次事企業パナヴィア社のトルネド・ジェット戦闘機購入契約に調印。

**(Z)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(AA)**①アラブリーグの経済問題書記次事企業パナヴィア社のトルネド・ジェット戦闘機購入契約に調印。

**(BB)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(CC)**①アラブリーグの経済問題書記次事企業パナヴィア社のトルネド・ジェット戦闘機購入契約に調印。

**(DD)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(EE)**①アラブリーグの経済問題書記次事企業パナヴィア社のトルネド・ジェット戦闘機購入契約に調印。

**(FF)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(GG)**①アラブリーグの経済問題書記次事企業パナヴィア社のトルネド・ジェット戦闘機購入契約に調印。

**(HH)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(II)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(JJ)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(KK)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(LL)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(MM)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(NN)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(OO)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(PP)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(QQ)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(RR)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(TT)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(UU)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(VV)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(WW)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(XX)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(YY)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(ZZ)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(AA)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(BB)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(CC)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(DD)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(EE)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(FF)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(GG)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(HH)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(II)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(JJ)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(KK)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(LL)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(MM)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(NN)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(OO)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(PP)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(QQ)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(RR)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(TT)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(UU)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(VV)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(WW)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(XX)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(YY)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(ZZ)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(AA)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(BB)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(CC)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(DD)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(EE)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(FF)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(GG)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(HH)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(II)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(JJ)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(KK)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(LL)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(MM)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(NN)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(OO)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(PP)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(QQ)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(RR)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(TT)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(UU)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(VV)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(WW)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(XX)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(YY)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(ZZ)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(AA)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(BB)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(CC)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(DD)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(EE)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(FF)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(GG)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時、逮捕したペレスチナ人戦士を拷問で殺した容疑(撲殺)で、モルデシャイ准将、軍裁判にかけられる。

**(HH)**①八四年、PFLPがガザで展開したバス制圧闘争時

⑤ TNT三〇〇キログラム。アラバマ州ス党レバノン支部、「アサド旅団」のマンナ・ハサン・カタヤ烈士。ペイルート近郊のスタル・ジベイルドで三人の元大統領が会見。フランジエ（七〇～七六）、シャムーン（五二～五八）、ヘルツ（六四～七〇）。一九二〇年の政体（大統領—マロン派、首相—スンニ、国會議長—シーア）を守るべき。なぜなら、このシステムは一〇〇年以上も続き、レバノン市民の心に根づいている。宗派の枠をとつ払った選挙も反対。「宗派別権益分割方式の堅持を望む」（NUFの要求拒否）

②シンドン市にSLAが砲撃。昨日の決死闘争への報復。

③アマルーレバニーズ・フォーシズ人質交換。アマル側、東ベイルートで三人ほどのイスラム教徒が誘拐された。

④レバノン政府、TMA(カーゴ飛行機会社)を国有化。(七月末にパイロットの賃上げスト以来、休業していた)

党（A S U P）執行委員ハサン・シャルハ氏、S A N Aとのインタビューで、エジプト人民の対シオニスト蜂起（カイロにて）は、イスラエル外交官の処刑をもつてスタートした、これはキャンプデービッドのくべきからエジプトを救う道、と語る。

③ベリ、レバノン改革八項目発表。（パールベック）大統領職を主要六宗派で輪番に担うなど（年交代）七〇〇〇人の聴衆、ベリ提案を大

② シドン市近郊で、アラファト派幹部フセイン・ハイビ氏（南部レバノンのファタハ保安部隊指揮官といわれる）、狙撃され重傷。シドン市リーダーたちは、ハイビ氏一派の退去を七月から要求していた。PNSF保安委員会書記アブ・ジャヘド氏は「今後三日間、一三

-17-

④ カイロ、イスラエル外交官処刑に  
関連して、一名逮捕さる。同乗し  
ていたイスラエル大使館秘書の証  
言がてがかり。攻撃してきた部隊  
三人、うち一名のみが直接攻撃  
(赤いフィアットで三人の男が乗  
つていた)。

⑤ 日本石油連盟 一九九五年までに  
石油への依存度を五〇・三%にす  
る(現在五九・四%)。

⑥ 一二日間の東西ベイルート無差  
別砲撃戦、停戦。(調停—シリヤ  
死者三二〇人、負傷一〇〇人)  
警察発表)

八・二三(金)  
① ベイルート空港再開。

② 伊のミラノでエル・アル事務所の  
入ったビルに爆弾攻撃。

③ レバニーズ・フォーシズがレバノ  
ンTV放送局放映開始。(ブシー  
ル・ジェマイエル暗殺四周年にあた  
り、特別番組の放映)

八・二四(木)  
① SLAの検問所に、決死闘争。  
TNT三〇〇キログラム。アラブ一  
ス党レバノン支部、「アサド旅団」  
のマンナ・ハサン・カタヤ烈士。  
② ベイルート近郊のスタル・ジベイ  
ルで三人の元大統領が会見。フラン  
ジエ(七〇・七六)、シャムー  
ン(五二・五八)、ヘルツ(六四  
・七〇)。一九二〇年の政体(大統  
領—マロン派、首相—スンニ、国  
会議長—シーア)を守るべき。な  
ぜなら、このシステムは一〇〇年  
以上も続き、レバノン市民の心に  
根づいている。宗派の枠をとつ払  
つた選挙も反対。「宗派別権益分  
割方式の堅持を望む」(NUFの  
要求拒否)

(3) TWA闘争によるアトリト監獄からのアラブ人政治犯釈放。第四回 目、「一、二三人が釈放された。(まだ一二〇人くらい残っている)

(B) (1) ヘルツォグ大統領、恩赦要求拒否。ヘルツォグの書記局によると「恩赦は、世論の高まりに屈する形でなされるべきでない。もつと静かに行われるもの」。元法相も国内の犯罪率が高いのに、恩赦はよくない。

(2) イスラエル軍、南レバノンのシーア派の村々をゲリラ狩り。(タンク導入)村民五人が連行される。家宅捜査拒否した村民は射たれ、「ゲリラの家」は爆破された。

## 八・二九(木)

(A) (1) P S P - シーダ派砲撃戦(ガソリンの配給をめぐるトラブルの拡大か?)

(2) シドン市にSLAが砲撃。昨日の決死闘争への報復。

(3) アマルーレバニーズ・フォーシズ人質交換。アマル側、東ベイブルーで三〇人ほどのイスラム教徒が誘拐された。

(4) レバノン政府、TMA(カーゴ飛行機会社)を国有化。(七月末にパイロットの賃上げスト以来、休業していた)

(B)①西岸で三人の国外追放、一五人間、裁判なしで拘留される)

八・三〇(金)

①ファードラツカ師、東西ベイルートの車爆弾連続攻撃は、C.I.A.とモサドが陰で糸をひき、ファンジストの諜報機関と協力したものと非難。(東ベイルートで二件、西ベイルートで三件)。ワシントンポスト紙は、最近ベイルート大使館防犯のため、反テロ部隊四〇〇人を設置したと報道。

八・三一(土)

①西独外相、シリヤ公式訪問。

②ペイリート アラブ社会主義統一党(A.S.U.P.)執行委員ハサン・シャルハ氏、S.A.N.Aとのインタビューで、エジプト人民の対シオニスト蜂起(カイロにて)は、イスラエル外交官の処刑をもつてスタートした、これはキャンプデービッドのくびきからエジプトを救う道、と語る。

③ベリ、レバノン改革八項目発表。(パールベック)大統領職を主要六宗派で輪番に担うなど(年交代)七〇〇〇人の聴衆、ベリ提案を大

(④) シドン市近郊のアラファト派幹部  
ムスタファ・カッセム・カリフ  
氏、暗殺される。

①) 米－イスラエルの共同自由貿易  
ゾーン設置スタート。(これでイスラ  
エルの「防衛産業」は米国防総  
省からの発注をうけられることにな  
った)

## 九・一（日）

①) ファランジスト代表団、シリア  
訪問了。

②) P S P砲兵隊、大統領官邸地区砲  
撃。ベイルート、南部でのクリスチ  
ヤンの攻撃に対する報復。

③) 米－イスラエル自由貿易条約、  
本日から発効。

## 九・二（月）

①) G C C外相会議。

[View all posts by admin](#) | [View all posts in category](#)

場建設に調印。工場は八八年完成をめざし、カイロ近郊に建設される予定。

⑧①入植地政策をめぐり、労働党—リクドの対立。右翼国会議員が、ヘブロン市内建物を不法占拠（五日目）。労働党は、これを不法で

③エジプト　一〇万人のエジプト人労働者追放（リビア）は「非人間的」とリビア非難。

③リビア 一〇月の国連四〇周年記  
②モロッコ、チュニジア、リビア和  
解のため、ハサン国王顧問がチュ  
ニス訪問。

①イスラエル、キプロス領海、港湾の主権尊重を保証。  
 ②ヘブロン市内のイスラエル占領当局による保安対策強化。

## 追補 七・八月号資料

③①サウジ国王、仏外相招待正式受諾（駐サウジ仏大臣発表）。  
 ④ダマス訪問終え（アサド大統領、カツダム第一副大統領との会談）帰国。曰く「レバノン危機解決には、まだ時間がかかりそうだ」  
 ⑤ザハレ市（人口一二万）で車爆弾攻撃（八五年度、一回目）  
 ⑥（第一報では死者一五、負傷五〇）  
 ⑦（九月四日～九月七日）

⑧ベイルートのボルジ・バラージナキャンプをめぐり、戦闘激化。

⑨①エジプトのルトフィ内閣成立。

⑩イスラエルはレバノン侵略により、

⑪アミン・ジェマイエル大統領のイ

ンタビュ（六月九日）主旨

⑫イスラエルはレバノン侵略により、

⑬自らの野望を充たそうとしたが、結

果は、にっちもさっちもいかない泥沼にはまりこむだけだった。レバノ

ン自身、侵略後の諸問題解決に努力

してきたが、困難はある。しかし、

解決へむけた道をめざし、解決のた

めの措置を構していく。従って、レ

バノンの全国民、全党派が国民的統

一という大目標へむけ、集団的な努

力をしていくよう、呼びかける。

⑭ジャジーンについては、平和的な

解決の見通しがどうしても立たぬの

なら、シリアーレバノン合意を近く

達成し、解決してゆくであろう。

## ペレスの「中東和平」五項目提案

六月一〇日

一、米国がイスラエル、ヨルダン、エジプト、PLOに属さないパレスチナ人士との交渉を継続するこ

と。

二、米、イスラエル、ヨルダン、パ

レスチナ合同代表団三者で和平会

議へむけた議題設定を行うこと。

（三者による議題設定）

三、ヨルダン・パレスチナ・イスラ

エル間の直接交渉支持を国連安保

理常任理事国から、とりつけるこ

と。

四、ペレスチナ人の代表は被占領地

から選出し、「住民の立場を代弁

し、（イスラエルにとっても）この

人ならばと両者が認めうる」人

物にすること。

五、むこう三カ月に「中東和平」開

会大会を開催すること。開催場所

は、後日確定するが、米国、ヨー

ロッパ、中東のいずれかにする。

条件が必要。

一、どんなアラブ国の連携（複数）

が強大である。

二、アラブが過激かつ根本的な主張

をして、ソ連のアラブ支援が無

力である。

（一）イスラエル内極右潮流紹介の時の

資料

イスラエルのファシスト組織

（二）グシェ・エモニム

一九七三年の一〇月戦争後創立。

リーダー・ツエビ・ヤフダ・クック

六〇年代、CIA、FBIと組

んで（傭われて）、米国左翼潮流

内でスパイ活動。コード名はミカ

エル・キング。「六月四日組織」

なるベトナム侵略戦争支持団体を

でっち上げる。ユダヤ防衛連盟と

（三）ユダヤ通信（新聞）を創刊。

（四）ユダヤ教司祭（ユダヤ

教司祭）

一九三二年、米国生まれ。ニュ

ーヨークのブルックリン。かつて、

ジャボチンスキーがカハネ家に一

月もとう留したというのが自慢の

種。米国では、ピツアル運動に参

加し、モーセ・アレンズから薦

陶をうけた。法医学部に入学するも

学位とれず、ユダヤ教司祭になる。

（五）ユダヤ教司祭（ユダヤ

教司祭）

創立一九七二年

（六）カハ

（七）カハ

（八）カハ

（九）カハ

（十）カハ

（十一）カハ

（十二）カハ

（十三）カハ

（十四）カハ

（十五）カハ

（十六）カハ

（十七）カハ

（十八）カハ

（十九）カハ

（二十）カハ

（二十一）カハ

（二十二）カハ

（二十三）カハ

（二十四）カハ

（二十五）カハ

（二十六）カハ

（二十七）カハ

（二十八）カハ

（二十九）カハ

（三十）カハ

（三十一）カハ

（三十二）カハ

（三十三）カハ

（三十四）カハ

（三十五）カハ

（三十六）カハ

（三十七）カハ

（三十八）カハ

（三十九）カハ

（四十）カハ

（四十一）カハ

（四十二）カハ

（四十三）カハ

（四十四）カハ

（四十五）カハ

（四十六）カハ

（四十七）カハ

（四十八）カハ

（四十九）カハ

（五十）カハ

（五十一）カハ

（五十二）カハ

（五十三）カハ

（五十四）カハ

（五十五）カハ

（五十六）カハ

（五十七）カハ

（五十八）カハ

（五十九）カハ

（六十）カハ

（六十一）カハ

（六十二）カハ

（六十三）カハ

（六十四）カハ

（六十五）カハ

（六十六）カハ

（六十七）カハ

（六十八）カハ

（六十九）カハ

（七十）カハ

（七十一）カハ

（七十二）カハ

（七十三）カハ

（七十四）カハ

（七十五）カハ

（七十六）カハ

（七十七）カハ

（七十八）カハ

（七十九）カハ

（八十）カハ

（八十一）カハ

（八十二）カハ

（八十三）カハ

（八十四）カハ

（八十五）カハ

（八十六）カハ

（八十七）カハ

（八十八）カハ

（八十九）カハ

（九十）カハ

（九十一）カハ

（九十二）カハ

（九十三）カハ

（九十四）カハ

（九十五）カハ

（九十六）カハ

（九十七）カハ

（九十八）カハ

（九十九）カハ

（一百）カハ

（一百一）カハ

（一百二）カハ

（一百三）カハ

（一百四）カハ

（一百五）カハ

（一百六）カハ

（一百七）カハ

（一百八）カハ

（一百九）カハ

（一百十）カハ

（一百十一）カハ

（一百十二）カハ

（一百十三）カハ

（一百十四）カハ

（一百十五）カハ

（一百十六）カハ

（一百十七）カハ

（一百十八）カハ

（一百十九）カハ

（一百二十）カハ

（一百二十一）カハ

（一百二十二）カハ

（一百二十三）カハ

（一百二十四）カハ

（一百二十五）カハ

（一百二十六）カハ

（一百二十七）カハ

（一百二十八）カハ

（一百二十九）カハ

（一百三十）カハ

（一百三十一）カハ

（一百三十二）カハ

（一百三十三）カハ

（一百三十四）カハ

（一百三十五）カハ

（一百三十六）カハ

（一百三十七）カハ

（一百三十八）カハ

（一百三十九）カハ

（一百四十）カハ

（一百四十一）カハ

（一百四十二）カハ

（一百四十三）カハ

（一百四十四）カハ

（一百四十五）カハ

（一百四十六）カハ

（一百四十七）カハ

（一百四十八）カハ

（一百四十九）カハ

（一百五十）カハ

（一百五十一）カハ

（一百五十二）カハ

（一百五十三）カハ

</div

FBIの関係強化に一役。仲間を軍事訓練し、反ソ妨害活動に使う。また、マフィア、とくにリーダーの一人ジョー・コロンボとも親しい。マフィアの破壊活動の手口をも身につける。

「二度と再び」という本を書き、以来、カハネのグループのスロー ガンに使用。

カハ党創立来、イスラエル選挙に立候補。得票のびは、

一九七三年 一万二八〇〇  
一九七七年 四万三二九六  
八三年 五万一二八八  
八三年、初めてカハネがカハ党から当選。八五年九月末頃、米法務省は、カハネの米国籍をはぐ奪。

イスラエル国会議員としての資格のため、二重国籍、とり消す。カハネが米国で磨いてきた、六〇年代の米国右翼の諸戦術駆使がカハネの“人気”的根拠とみられる。主張・西岸、ガザからアラブ人を全て追い出す。

(3) テロルにはテロルを  
創立・不明  
リーダー・軍、ユダヤ教司祭層内の  
人種差別主義者。同組織裁判で判決をうけた面々に関する資料参照。

主張・アラブ人のテロリズムに対する報復。主な活動・ユダヤ人、パレスチナ人の一人ジョー・コロンボとも親しい。マフィアの破壊活動の手口をも身につける。

人防衛連盟軍事キャンプで訓練共 同とされている。

主張・アラブ交渉、領土上の譲歩しており、軍事経験が豊か。「エルサレムとイスラエルから全アラブとの連携強い。米国内のユダヤ

特徴・警察の中にメンバーを組織しており、軍事経験が豊か。「エルサレムとイスラエルから全アラブの人を追い出せ」と主張。

(4) ジュディア・サマリヤ（西岸をイスラエルは、旧約聖書風にこう呼ぶ）への道連盟 創立・西岸入植者が七九年に創立

(5) マエツ・ギヤング（マエツ・ギヤング） 創立・？

(6) リーダー・ユセフ・アヌウ（リーダー・ユセフ・アヌウ（ユダヤ・アヴィヴ支部長） 創立・？

(7) アル・アクサモスク奪回運動 創立・？ 六八年から活動がめざましくなった。

(8) ソレハ・ツイウン連盟 創立・？

(9) ハタヒヤ（ルネッサンス）運動 創立・一九七九年、キャンプ・デービッドに反対して、ヘルート党か ら分派。

拠点・エルサレム

特徴・警察の中にメンバーを組織しており、軍事経験が豊か。「エルサレムとイスラエルから全アラブの人を追い出せ」と主張。

リーダー・？

特徴・対アラブ交渉、領土上の譲歩に反対。イスラエル国会に進出。

## 既刊・主要論文

- 第1号 再編に向けた矛盾の激化 1985年6月10日
- 第2号 反米・反イスラエル闘争を柱とする味方の再編 1985年7月10日
- 第3号 壁にぶちあたるアンマン合意とレバノン建国の方向 1985年8月10日

ウニタ書舗の最新刊

\* 「資料・中東レポートI」 240ページ、2500円